

両警構想区域対応方針の具体的対応について

◀ 推進区域の設定に伴う区域対応方針の策定について ▶

- 昨年度において、令和7年必要病床数と令和4年度病床機能報告データを比較し、特に急性期病床について必要数と乖離が大きい区域として、両警構想区域が国より「推進区域」に設定されたことから、区域対応方針の作成を行ったところです。
- 方針の検討過程では、入院患者数が季節変動の影響を受けること、病床機能報告が病棟単位で行われるため、「急性期」と報告されている病棟でも、実際には急性期に該当しない患者が一定数存在することといった理由から、現行の病床機能報告が実態を十分に反映していないとの意見が多く挙げられました。
- これらを踏まえ、区域対応方針では、国の病床機能報告基準日(令和7年7月1日)に合わせ、急性期の機能に着目しつつ、病床単位での病床機能を調査し、実態を把握する方針としました。

◎ 病床単位での病床機能調査結果について

「推進区域」に設定された時点の令和4年度における令和7年の見込値と、令和7年7月1日現在の病床単位で調査した「急性期」病床データを比較した結果、充足率は大幅に減少しています。

・推進区域設定時 令和7年見込量(690床)÷地域医療構想令和7年必要数(278床) = 248%

・令和7年病床単位調査 令和7年見込量(404床)÷地域医療構想令和7年必要数(278床) = 145%

※急性期病床の充足率を「推進区域」設定時の他圏域のデータと比較すると、9圏域中5番目と県下中位まで向上します。

なお、未回答、調査困難な医療機関については、病床機能報告と同一データを計上しています

病床機能（病棟単位）※病床機能報告数値

単位：床（令和7年7月1日現在）

	高度急性期	急性期	回復期	慢性期	その他	空床	計
一関市国民健康保険藤沢病院	0	0	44	0	0	0	44
岩手県立磐井病院	0	315	0	0	0	0	315
岩手県立大東病院	0	0	40	0	0	0	40
医療法人博愛会 一関病院	0	110	0	0	0	0	110
医療法人社団愛生会昭和病院	0	54	0	0	0	0	54
岩手県立千厩病院	0	60	56	0	0	0	116
独立行政法人国立病院機構岩手病院	0	0	50	200	0	0	250
医療法人清和会 岩手クリニック一関	0	0	0	0	0	0	0
コスモレディースクリニック	0	12	0	0	0	0	12
一関中央クリニック	0	17	0	0	0	0	17
齊藤産婦人科医院	0	0	0	0	0	0	0
くわしま眼科クリニック	0	4	0	0	0	0	4
二宮眼科医院	0	12	0	0	0	0	12
a	0	584	190	200	0	0	974

病床機能（病床単位）

単位：床（令和7年7月1日現在）

	高度急性期	急性期	回復期	慢性期	その他	空床	計
一関市国民健康保険藤沢病院	0	0	44	0	0	0	44
岩手県立磐井病院	0	193	0	0	10	112	315
岩手県立大東病院	0	0	40	0	0	0	40
医療法人博愛会 一関病院	0	110	0	0	0	0	110
医療法人社団愛生会昭和病院	0	0	54	0	0	0	54
岩手県立千厩病院	0	56	25	0	0	35	116
独立行政法人国立病院機構岩手病院	0	0	50	200	0	0	250
医療法人清和会 岩手クリニック一関	0	0	0	0	0	0	0
コスモレディースクリニック	0	12	0	0	0	0	12
一関中央クリニック	0	17	0	0	0	0	17
齊藤産婦人科医院	0	0	0	0	0	0	0
くわしま眼科クリニック	0	4	0	0	0	0	4
二宮眼科医院	0	12	0	0	0	0	12
b	0	404	213	200	10	147	974
差異 b-a	0	▲ 180	23	0	10	147	0

両磐構想区域 区域対応方針

令和7年2月策定

1 岩手県地域医療構想により目指すべき将来像

患者のニーズに応じて高度急性期から、急性期、回復期、慢性期、在宅医療・介護に至るまで一連のサービスが切れ目なく、また過不足なく提供される体制を確保するため、各構想区域において病床機能の分化と連携を推進し、効率的で質の高い医療提供体制を構築すること。

2 現状と課題

(1) 構想区域の現状及び課題

地域医療構想で定めている2025年の機能別の必要病床数に対し、両磐構想区域の急性期病床数が県内で最も過剰となっている。

(2) これまでの地域医療構想の取組

- 両磐保健医療圏の地域医療を守る懇談会（両磐構想区域の地域医療構想調整会議）を開催し、各医療機関の具体的対応方針の策定及び見直しに係る議論を実施。
- 地域医療介護総合確保基金を活用し、病床削減を伴う病床機能再編を行う医療機関に対し、給付金を支給。

(3) 地域医療構想の進捗状況の検証方法

病床機能報告の結果や医療機関の具体的対応方針により、地域医療構想の進捗状況を確認している。

(4) 地域の医療機関、患者、住民等に対する周知方法

- 当該構想区域の地域医療構想調整会議は、地域住民、医療関係団体、民間医療施設、公的医療機関、社会福祉・介護関係団体、教育関係者、市町・保険者等で構成しており、原則公開で開催している。
- 地域医療構想調整会議終了後、資料及び会議録を岩手県ホームページで公開している。

(5) 各時点の機能別病床数

	2015年 病床数	2022年度 病床機能 報告 (A)	2025年 予定 病床数 (B)※	2025年 病床数の 必要量 (C)	差引 (C) - (A)	差引 (C) - (B)
高度急性期	0	0	0	76	76	76
急性期	855	725	690	278	▲447	▲412
回復期	151	194	337	290	96	▲47
慢性期	230	320	200	237	▲83	37
合計	1,236	1,239	1,227	881	▲358	▲346

※ 2022年度の病床機能報告において「2025年7月1日時点における病床の整備の予定」として報告された病床数の合計

3 今後の対応方針

(1) 構想区域における対応方針

限られた医療資源のもと、病床機能の分化と連携を推進し、効率的で質の高い医療提供体制を構築する。

(2) 構想区域における対応方針を達成するための取組

病床単位で医療機能を把握し、地域医療構想調整会議において、現状や将来の医療需要を踏まえた医療機関の役割分担に係る議論を行う。

(3) 必要量との乖離に対する取組

- 病床機能報告において、医療機関に対し、病棟内で最も多くの割合を占める患者に相当する機能を報告するよう周知すること。
- 病床機能報告上、急性期病床数が過剰となっていることから、医療機関に対し、1病棟の中で急性期と回復期の患者が同数の場合には、回復期で報告いただくよう依頼すること。
- 地域医療介護総合確保基金を活用し、病床減少を伴う病床機能再編に取り組む医療機関の財政的支援を行うこと。

4 具体的な計画

	取組内容	到達目標
2024年度	○ 区域対応方針の策定	地域医療構想調整会議において区域対応方針の策定に係る協議を行い、両磐構想区域の現状、課題、今後の取組事項等について共通認識をもつ。
2025年度	○ 区域対応方針で定めた取組事項の実施 ○ 新たな地域医療構想の策定に向けたデータ収集、分析等	地域医療構想調整会議において、現状や将来の医療需要を踏まえて、医療機関の役割分担に係る議論を行う。

地域医療構想実現に向けた取組シート

医療機関名	一関市国民健康保険藤沢病院
担当者職・氏名	事務局長 新沼 健

■ 医療資源等

病床種別	区分	一般	療養				計
	許可	44床	床				44床
	稼働	44床	床				44床
	非稼働	床	床				床

※ 令和7年7月1日時点の種別ごとの病床数を記入してください。

■ 患者の状況

1日平均 入院患者数	年度	一般	療養				計
	R6	28.0人	人				28.0人
	R5	30.9人	人				30.9人
	R4	30.4人	人				30.4人

※ 令和6年4月1日から令和7年3月31日までの1年間の平均入院患者数を記入してください。

上記の入院患者数は、小数第一位まで(小数第二位を四捨五入)を記入してください。

病床 利用率	年度	一般	療養				各区分を合わせた病床全体の 病床利用率
	R6	63.70%	%				63.70%
	R5	70.20%	%				70.20%
	R4	69.10%	%				69.10%

※ 令和6年4月1日から令和7年3月31日までの1年間の病床利用率を記入してください。

上記の病床利用率は、小数第一位まで(小数第二位を四捨五入)を記入してください。

平均在院 日数	年度	一般	療養				全体の平均
	R6	14.1日	日				14.1日
	R5	14.0日	日				14.0日
	R4	14.8日	日				14.8日

※ 令和6年4月1日から令和7年3月31日までの1年間の平均在院日数を記入してください。

上記の平均在院日数は、小数第一位まで(小数第二位を四捨五入)を記入してください。

救急患者受 け入れ状況	R6	件
	R5	238件
	R4	216件

※ 令和6年7月1日から令和7年6月30日までの1年間の救急車や救急医療用ヘリコプター等により搬送され受け入れた患者数を計上してください。

なお、病院間の搬送は対象外としますが、他院にて対応不可能として搬送された場合は計上してください。

■ 診療科目

診療科目	内科(総合診療内科)、外科、整形外科、精神科
------	------------------------

■ 病床機能(病棟単位)

病床機能 (稼働)		高度急性期	急性期	回復期	慢性期	その他	計
	R7報告	床	床	44床	床	床	44床
	R7実績	床	床	44床	床	床	44床

※ R7報告は、許可病床数から令和6年7月1日から令和7年6月30日までの過去1年間に一度も入院患者を収容しなかった病床数を除いた病床数を記入してください。

R7実績は、令和7年7月1日時点で許可病床数のうち入院患者を収容する病床数を記入してください。

■ 病床機能(病床単位)※新規項目

	高度急性期	急性期	回復期	慢性期	空床	その他	計
一般病棟	床	床	44床	床	床	床	44床
病棟	床	床	床	床	床	床	床
病棟	床	床	床	床	床	床	床
病棟	床	床	床	床	床	床	床
病棟	床	床	床	床	床	床	床
病棟	床	床	床	床	床	床	床
計	床	床	44床	床	床	床	44床

※ 令和7年7月1日時点の状況について、病床単位で記入してください。病床単位での機能の把握が難しい場合は、空床数を記入の上、病棟単位の病床数から空床分を差し引いた病床数を記入してください。

■ 在宅関連

	R6	R5	R4
訪問診療実施件数	552	591	798
往診実施件数	25	59	48
訪問看護件数	6,839	6,721	7,298
在宅看取り件数	13	45	38

※ 令和6年7月1日から令和7年6月30日までの1年間での件数を計上してください。

■ 貴診療所の役割及び特色

- ・ 医療資源の乏しい旧東磐井地域の医科医療機関として、初期救急から入院、在宅含めた医療を提供する役割
- ・ 一関市病院事業として医療と6つの介護事業を一体的に運営し、地域包括医療・ケアを実践
- ・ 24時間の初期救急対応
- ・ 高度医療機器の共同利用
- ・ 限られた医療介護資源を守り育てる地域住民との協働

■ 医療と介護の連携及び在宅医療の充実に向けた取組

保健、医療、福祉、介護の連携を推進し、各分野のサービスが切れ目無く提供される地域包括ケアシステムの中心的な役割を果たしている。

■ 今後の方向性(2040年頃の医療提供状況や病床数の見通し等)

44床を最小サイズと考え、その維持に努めているところであるものの、患者減少や賃金水準の上昇などの厳しい経営環境が継続していくことが容易に予想でき、機能や規模の早期見直しが必要と考えている。人口減少と高齢化の伸展による必要なサービスの量と内容が変化しているが、地域の暮らしを支えるために必要な医療機能をどのように維持していくかが課題であり、人材不足のなか地域に最低限必要なサービス機能の選択を行いながら、医療と介護を提供し続けなければならないと考えている。

■ その他(他の医療機関との機能連携等)

地域医療構想実現に向けた取組シート 差し替え

医療機関名	岩手県立磐井病院
担当者職・氏名	

■ 医療資源等

病床種別	区分	一般	療養	結核		計
	許可	305床	床	10床		315床
	稼働	床	床	10床		315床
	非稼働	床	床	0床		床

※ 令和7年7月1日時点の種別ごとの病床数を記入してください。

■ 患者の状況

1日平均 入院患者数	年度	一般	療養	結核		計
	R6	240.6人	人	0.4人		240.9人
	R5	224.3人	人	3.7人		228.0人
	R4	216.5人	人	4.1人		220.6人

※ 令和6年4月1日から令和7年3月31日までの1年間の平均入院患者数を記入してください。
上記の入院患者数は、小数第一位まで(小数第二位を四捨五入)を記入してください。

病床 利用率	年度	一般	療養	結核		各区分を合わせた病床全体の病床利用率
	R6	78.9%	%	3.7%		76.5%
	R5	73.6%	%	37.4%		72.4%
	R4	71.0%	%	41.2%		70.0%

※ 令和6年4月1日から令和7年3月31日までの1年間の病床利用率を記入してください。
上記の病床利用率は、小数第一位まで(小数第二位を四捨五入)を記入してください。

平均在院 日数	年度	一般	療養	結核		全体の平均
	R6	9.1日	日	7.3日		9.1日
	R5	9.2日	日	6.4日		9.3日
	R4	9.2日	日	7.8日		9.3日

※ 令和6年4月1日から令和7年3月31日までの1年間の平均在院日数を記入してください。
上記の平均在院日数は、小数第一位まで(小数第二位を四捨五入)を記入してください。

救急患者受 け入れ状況	R6	3,659件
	R5	3,293件
	R4	3,028件

※ 令和6年7月1日から令和7年6月30日までの1年間の救急車や救急医療用ヘリコプター等により搬送され受け入れた患者数を計上してください。
なお、病院間の搬送は対象外としますが、他院にて対応不可能として搬送された場合は計上してください。

■ 診療科目

診療科目	内科、心療内科、精神科、脳神経内科、呼吸器内科、消化器内科、循環器内科、小児科、外科、消化器外科、整形外科、形成外科、脳神経外科、心臓血管外科、皮膚科、泌尿器科、産婦人科、眼科、耳鼻いんこう科、リハビリテーション科、放射線科、麻酔科、病理診断科、救急科、歯科口腔外科
------	---

■ 病床機能(病床単位)

病床機能 (稼働)		高度急性期	急性期	回復期	慢性期	その他	計
	R7報告		315床				315床
	R7実績		315床				315床

※ R7報告は、許可病床数から令和6年7月1日から令和7年6月30日までの過去1年間に一度も入院患者を収容しなかった病床数を除いた病床数を記入してください。
R7実績は、令和7年7月1日時点で許可病床数のうち入院患者を収容する病床数を記入してください。

■ 病床機能(病床単位)※新規項目

	高度急性期	急性期	回復期	慢性期	空床	その他	計
2病棟		30床			21床		51床
3西病棟		31床			29床		60床
3東病棟		45床			15床		60床
4西病棟		30床			20床		50床
4東病棟		47床			13床		60床
5病棟		10床			14床		24床
計	0床	193床	0床	0床	112床	0床	305床

※ 令和7年7月1日時点の状況について、病床単位で記入してください。病床単位での機能の把握が難しい場合は、空床数を記入の上、病棟単位の病床数から空床分を差し引いた病床数を記入してください。

■ 在宅関連

	R6	R5	R4
訪問診療実施件数	0	11	20
往診実施件数	4	13	15
訪問看護件数	0	1	3
在宅看取り件数	3	12	14

※ 令和6年7月1日から令和7年6月30日までの1年間での件数を計上してください。

■ 貴診療所の役割及び特色

- ・基幹病院として、両磐圏域や宮城県北部の急性期患者を受け入れている。また、二次救急医療は元より、がん治療や周産期医療の専門医療を積極的に行っている。
- ・地域がん診療拠点病院として、専門的ながん治療、緩和ケア医療を行っている。
- ・地域医療支援病院として、紹介患者に対する医療の提供、地域の医療従事者に対する研修を行っている。
- ・地域周産期母子医療センター及び小児地域医療センターとして、周産期や小児にかかる比較的高度な医療を提供している。
- ・救急告示病院として、圏域内を中心に救急患者を年間10,636人（令和6年度実績）受け入れている。

■ 医療と介護の連携及び在宅医療の充実に向けた取組

- ・地域医療支援病院として、紹介患者の積極的な受入れ（慢性期疾患の急性増悪時への受診、入院支援）、地域の医療従事者に対する研修の開催など、かかりつけ医などへの支援、連携強化を行う。
- ・当院を退院した患者のかかりつけ医及び居宅ケアマネージャー等との情報共有や連携連絡会議の実施。
- ・介護施設等を含めた地域連携パスの見直しを進め、大腿骨骨折、脳卒中地域連携パス使用率の増加につながっている。

■ 今後の方向性(2040年頃の医療提供状況や病床数の見通し等)

- ・機能集約・強化型の基幹病院として、現在の医師の体制等の強みや特長を生かし、専門人材や高度医療器械を重点的に配置し、症例数や手術数の集積を図り、ハイボリュームセンターとしての機能と役割を果たす。
- ・地域医療支援病院として、紹介患者の積極的な受入れ、地域の医療従事者に対する研修の開催など、かかりつけ医等への支援、連携を強化。
- ・医師が不足する地域への診療応援など、地域医療支援を強化。
- ・臨床研修病院及び専門研修における基幹施設として、研修医及び専攻医を受入れ。
- ・がん医療圏（両磐）における拠点として、高度・専門的ながん医療を提供。
- ・脳卒中医療圏（胆江・両磐）において専門的な脳卒中医療を提供。
- ・心血管疾患医療圏（両磐）において専門的な心血管疾患医療を提供。
- ・周産期医療圏（岩手中部・胆江・両磐）における地域周産期母子医療センターとして、周産期に係る比較的高度な医療を提供。
- ・病院群輪番制病院として、二次救急医療を提供。
- ・地域災害拠点病院として、災害発生時の災害派遣医療チームの派遣や被災地内の重篤救急患者の受入れを実施。
- ・流行初期医療確保措置協定締結医療機関として、新興感染症に係る入院医療等を提供。
- ・障がい者への専門的歯科治療の実施。
- ・HCUを整備し、高度急性期への対応を進めるほか、令和6年度に県の結核予防計画の改定により、磐井病院については結核病床を廃止することとされ、冬期を中心とする病床逼迫等の状況を踏まえ、結核病床を一般病床に転用することとする。詳細は別紙のとおり。

■ その他(他の医療機関との機能連携等)

- ・近隣の病院が閉院または機能縮小をしているため、更に急性期病院として、また二次救急の受入れの病院としての役割が大きくなってきている。いずれ、他の圏域の基幹病院や大学病院への高度急性期の患者の搬送、また急性期を脱した患者については、病院に限らず介護施設などへ逆紹介できる体制を整えていかなければならない。

別紙

令和7年7月1日の病床機能

	高度急性期	急性期	回復期	慢性期	空床	その他	計
2病棟	0床	51床	0床	0床	0床	0床	51床
3西病棟	0床	60床	0床	0床	0床	0床	60床
3東病棟	0床	60床	0床	0床	0床	0床	60床
4西病棟	0床	50床	0床	0床	0床	0床	50床
4東病棟	0床	60床	0床	0床	0床	0床	60床
5病棟	0床	24床	0床	0床	0床	0床	24床
計	0床	305床	0床	0床	0床	0床	305床



令和8年7月1日の病床機能

	高度急性期	急性期	回復期	慢性期	空床	その他	計
HCU病棟	6床						
2病棟		42床					42床
3西病棟		60床					60床
3東病棟		60床					60床
4西病棟		60床					60床
4東病棟		60床					60床
5病棟				24床			24床
計	6床	282床	0床	24床	0床	0床	312床
比較増減	6床	▲23床	0床	24床	0床	0床	7床

- 現在、一般病床305床、結核病床10床で運営しているが、令和6年度に結核予防計画が改定され、当病院の結核病床は廃止することとされたこと。
- 救急患者や紹介患者等の受入れには、用途が限定される緩和ケア病棟（24床）と新生児（8床）を除く273床で対応しているところ、これらの病床の稼働率は年間で88.3%であり、特に年度の後半については空き病床がなく、患者の受入れ等に支障が生じている。
- 特に、疾病事業別医療圏の設定等に伴い、当病院が胆江・両磐圏域における脳卒中急性期の専門医療を行う病院とされたこと等に伴い、脳神経外科と脳神経内科の患者数が、対前年比で20%前後増加している。
- 令和7年11月10日から令和8年1月15日までの間、平日病床利用率90%を超え、退院促進、入院抑制をしながら運営しているところ。
- 上記のような病床逼迫の状況を踏まえ、円滑な患者の受入れにより、両磐（及び胆江）保健医療圏において磐井病院に求められる役割を果たしていくため、廃止される結核病床のスペースを活用し、新たなに一般病床を10床増設したい。
- これまで急性期で届出を行っていた緩和ケア病床について、これまで、看護配置が7：1であること等から急性期に区分していたが、他の病院等の届出状況や、実際に行われる医療の内容を踏まえた場合、慢性期での届出が適当と判断し、区分を変更する。
- このことにより、急性期病床が過剰、慢性期病床が不足しているという当圏域の状況を踏まえつつ、磐井病院に求められる医療機能を強化していく。

地域医療構想実現に向けた取組シート

医療機関名	岩手県立大東病院
担当者職・氏名	行政専門員 高木篤実

■ 医療資源等

病床種別	区分	一般	療養				計
	許可	40床	床				40床
	稼働	40床	床				40床
	非稼働	0床	床				0床

※ 令和7年7月1日時点の種別ごとの病床数を記入してください。

■ 患者の状況

1日平均 入院患者数	年度	一般	療養				計
	R6	15.1人	人				15.1人
	R5	16.3人	人				16.3人
	R4	18.4人	人				18.4人

※ 令和6年4月1日から令和7年3月31日までの1年間の平均入院患者数を記入してください。

上記の入院患者数は、小数第一位まで(小数第二位を四捨五入)を記入してください。

病床 利用率	年度	一般	療養				各区分を合わせた病床全体の 病床利用率
	R6	37.8%	%				37.8%
	R5	40.8%	%				40.8%
	R4	46.1%	%				46.1%

※ 令和6年4月1日から令和7年3月31日までの1年間の病床利用率を記入してください。

上記の病床利用率は、小数第一位まで(小数第二位を四捨五入)を記入してください。

平均在院 日数	年度	一般	療養				全体の平均
	R6	16.1日	日				16.1日
	R5	17.4日	日				17.4日
	R4	18.6日	日				18.6日

※ 令和6年4月1日から令和7年3月31日までの1年間の平均在院日数を記入してください。

上記の平均在院日数は、小数第一位まで(小数第二位を四捨五入)を記入してください。

救急患者受 け入れ状況	R6	17件
	R5	24件
	R4	16件

※ 令和6年7月1日から令和7年6月30日までの1年間の救急車や救急医療用ヘリコプター等により搬送され受け入れた患者数を計上してください。

なお、病院間の搬送は対象外としますが、他院にて対応不可能として搬送された場合は計上してください。

■ 診療科目

診療科目	内科、脳神経内科、外科、整形外科、リハビリテーション科
------	-----------------------------

■ 病床機能(病棟単位)

病床機能 (稼働)		高度急性期	急性期	回復期	慢性期	その他	計
	R7報告	床	床	40床	床	床	40床
	R7実績	床	床	19床	床	床	19床

※ R7報告は、許可病床数から令和6年7月1日から令和7年6月30日までの過去1年間に一度も入院患者を収容しなかった病床数を除いた病床数を記入してください。

R7実績は、令和7年7月1日時点で許可病床数のうち入院患者を収容する病床数を記入してください。

■ 病床機能(病床単位)※新規項目

	高度急性期	急性期	回復期	慢性期	空床	その他	計
2階病棟	床	床	40床	床	床	床	40床
病棟	床	床	床	床	床	床	床
病棟	床	床	床	床	床	床	床
病棟	床	床	床	床	床	床	床
病棟	床	床	床	床	床	床	床
病棟	床	床	床	床	床	床	床
計	床	床	40床	床	床	床	40床

※ 令和7年7月1日時点の状況について、病床単位で記入してください。病床単位での機能の把握が難しい場合は、空床数を記入の上、病棟単位の病床数から空床分を差し引いた病床数を記入してください。

■ 在宅関連

	R6	R5	R4
訪問診療実施件数	36	47	34
往診実施件数	2	24	4
訪問看護件数	0	5	4
在宅看取り件数	2	2	2

※ 令和6年7月1日から令和7年6月30日までの1年間での件数を計上してください。

■ 貴診療所の役割及び特色

東日本大震災で被災し休止していた病棟を、平成26年4月に一般病床40床で再開。両磐保健医療圏内の磐井病院と千厩病院並びに介護福祉施設等と連携を図りながら、大東地域における回復期医療・慢性期医療及び在宅医療を担っている。

平成29年7月から一般病床40床のうち12床を地域包括ケア病床として開設した。今後の需要を見込んで平成31年3月からは20床に増床して運用している。当該病床ではリハビリテーションを積極的に実施して、在宅復帰の推進を図っている。また、家族が在宅で介護が続けられるように、在宅で介護を行う家族が休息や、やむを得ない理由で介護を行えない短期間のサポートを目的としたレスパイト入院を積極的に受け入れている。

■ 医療と介護の連携及び在宅医療の充実に向けた取組

地域包括ケア病床でのレスパイト入院の受け入れを行っており、一時的な介護困難者の受け入れや施設入所までの患者受け入れ等を行っている。また、在宅医療により自宅復帰を希望する患者の支援も行っている。

■ 今後の方向性(2040年頃の医療提供状況や病床数の見通し等)

- ・回復期を中心とした病床機能を担う。
- ・圏域の地域病院として、基幹病院である磐井病院や千厩病院と連携しながら地域の入院機能を担う。
- ・診療科は内科、外科を中心に入院及び外来機能を有する病院とする。
- ・医療・介護・福祉・行政との連携、協働により、レスパイト入院の受入れや在宅医療の実施等、地域包括ケアシステムの一翼を担う。
- ・地域からの救急応需要望に応えるため、平日日中の救急患者の受入れと夜間救急当番医を継続して行う。

■ その他(他の医療機関との機能連携等)

- ・千厩・東山訪問看護ステーション運営協議会へ参加
- ・大東地域多職種意見交換会(年3回)の開催
- ・大東地域支援会議へ参加
- ・一関市医療と介護の連携連絡会へ参加
- ・両磐地域連携パス(脳卒中・大腿骨頸部骨折)への参画
- ・入退院支援看護師等連携会議へ参加
- ・在宅療養患者への訪問診療及び訪問看護の提供
- ・24時間訪問看護体制確保のための訪問看護ステーションとの連携

地域医療構想実現に向けた取組シート

医療機関名	一関病院
担当者職・氏名	事務部長・千田 訓裕

■ 医療資源等

病床種別	区分	一般	療養			計
	許可	139床	60床			199床
	稼働	110床	0床			110床
	非稼働	29床	60床			89床

※ 令和7年7月1日時点の種別ごとの病床数を記入してください。

■ 患者の状況

1日平均 入院患者数	年度	一般	療養			計
	R6	101.5人	0人			101.5人
	R5	人	人			人
	R4	人	人			人

※ 令和6年4月1日から令和7年3月31日までの1年間の平均入院患者数を記入してください。
上記の入院患者数は、小数第一位まで(小数第二位を四捨五入)を記入してください。

病床 利用率	年度	一般	療養			各区分を合わせた病床全体の病床利用率
	R6	92.30%	0%			92.30%
	R5	%	%			%
	R4	%	%			%

※ 令和6年4月1日から令和7年3月31日までの1年間の病床利用率を記入してください。
上記の病床利用率は、小数第一位まで(小数第二位を四捨五入)を記入してください。

平均在院 日数	年度	一般	療養			全体の平均
	R6	19.6日	0日			日
	R5	日	日			日
	R4	日	日			日

※ 令和6年4月1日から令和7年3月31日までの1年間の平均在院日数を記入してください。
上記の平均在院日数は、小数第一位まで(小数第二位を四捨五入)を記入してください。

救急患者受け入れ状況	R6	460件
	R5	件
	R4	件

※ 令和6年7月1日から令和7年6月30日までの1年間の救急車や救急医療用ヘリコプター等により搬送され受け入れた患者数を計上してください。
なお、病院間の搬送は対象外としますが、他院にて対応不可能として搬送された場合は計上してください。

■ 診療科目

診療科目	内科 消化器内科 呼吸器内科 外科 整形外科 脳神経外科 産婦人科 眼科 麻酔科 アレルギー科 リハビリテーション科 緩和医療科 肛門外科 総合診療科 リウマチ科 循環器内科 泌尿器科
------	--

■ 病床機能(病棟単位)

病床機能 (稼働)		高度急性期	急性期	回復期	慢性期	その他	計
	R7報告	床	110床	床	床	床	110床
	R7実績	床	110床	床	床	床	110床

※ R7報告は、許可病床数から令和6年7月1日から令和7年6月30日までの過去1年間に一度も入院患者を収容しなかった病床数を除いた病床数を記入してください。
R7実績は、令和7年7月1日時点で許可病床数のうち入院患者を収容する病床数を記入してください。

■ 病床機能(病床単位)※新規項目

	高度急性期	急性期	回復期	慢性期	空床	その他	計
2階病棟	床	床	床	床	7床	床	44床
3階病棟	床	床	床	床	0床	床	59床
病棟	床	床	床	床	床	床	床
病棟	床	床	床	床	床	床	床
病棟	床	床	床	床	床	床	床
病棟	床	床	床	床	床	床	床
計	床	床	床	床	床	床	床

※ 令和7年7月1日時点の状況について、病床単位で記入してください。病床単位での機能の把握が難しい場合は、空床数を記入の上、病棟単位の病床数から空床分を差し引いた病床数を記入してください。

■ 在宅関連

	R6	R5	R4
訪問診療実施件数	7,987		
往診実施件数	703		
訪問看護件数	8,183		
在宅看取り件数	186		

※ 令和6年7月1日から令和7年6月30日までの1年間での件数を計上してください。

■ 貴診療所の役割及び特色

1. 特徴
当院は、強化型在宅療養支援病院として、地域における在宅医療・急性期から在宅への切れ目ない支援体制の構築に取り組んでいる。現在、稼働110床すべてを地域包括ケア病床として運用し、急性期病院からの受け入れや在宅復帰支援を中心に地域医療を支えている。

2. 役割
当院は、地域における医療機能の一翼を担う病院として、以下の役割を果たしていく。

- ・手術科（外科・整形外科）機能の維持・継続
- ・地域の外科学系医療を継続的に提供し、必要な手術・処置に対応できる体制を維持する。
- ・高齢者救急医療の推進

高齢患者の救急受け入れを積極的に行い、地域の他医療機関の負担軽減に貢献する。

- ・地域連携の推進

「まずは診る、そしてつなぐ」を基本姿勢とし、地域の医療・介護・福祉機関との連携を一層強化していく。

■ 医療と介護の連携及び在宅医療の充実にに向けた取組

・在宅医療の充実として、訪問診療・訪問看護・訪問リハビリ等を通じ、在宅療養者やその家族を継続的に支援する体制を整備する。

■ 今後の方向性(2040年頃の医療提供状況や病床数の見通し等)

・地域包括ケアシステムの充実(訪問看護・訪問リハビリ・訪問診療・訪問栄養指導等)

■ その他(他の医療機関との機能連携等)

・県立磐井病院等と連携し、急性期治療後の後方支援機能を充実・拡充することで、切れ目のない医療提供体制を整える。

地域医療構想実現に向けた取組シート

医療機関名	医療法人社団愛生会昭和病院
担当者職・氏名	事務長・佐々木彰徳

■ 医療資源等

病床種別	区分	一般	療養				計
	許可	54床	床				54床
	稼働	54床	床				54床
	非稼働	床	床				床

※ 令和7年7月1日時点の種別ごとの病床数を記入してください。

■ 患者の状況

1日平均 入院患者数	年度	一般	療養				計
	R6	39.8人	人				39.8人
	R5	40.8人	人				40.8人
	R4	39.2人	人				39.2人

※ 令和6年4月1日から令和7年3月31日までの1年間の平均入院患者数を記入してください。

上記の入院患者数は、小数第一位まで(小数第二位を四捨五入)を記入してください。

病床 利用率	年度	一般	療養				各区分を合わせた病床全体の 病床利用率
	R6	76.40%	%				76.40%
	R5	78.80%	%				78.80%
	R4	76.00%	%				76.00%

※ 令和6年4月1日から令和7年3月31日までの1年間の病床利用率を記入してください。

上記の病床利用率は、小数第一位まで(小数第二位を四捨五入)を記入してください。

平均在院 日数	年度	一般	療養				全体の平均
	R6	24.8日	日				24.8日
	R5	24.6日	日				24.6日
	R4	24.3日	日				24.3日

※ 令和6年4月1日から令和7年3月31日までの1年間の平均在院日数を記入してください。

上記の平均在院日数は、小数第一位まで(小数第二位を四捨五入)を記入してください。

救急患者受 け入れ状況	R6	212件
	R5	252件
	R4	197件

※ 令和6年7月1日から令和7年6月30日までの1年間の救急車や救急医療用ヘリコプター等により搬送され受け入れた患者数を計上してください。

なお、病院間の搬送は対象外としますが、他院にて対応不可能として搬送された場合は計上してください。

■ 診療科目

診療科目	内科、呼吸器内科、循環器内科、消化器内科、ペインクリニック内科、アレルギー科、麻酔科、脳神経内科
------	--

■ 病床機能(病棟単位)

病床機能 (稼働)		高度急性期	急性期	回復期	慢性期	その他	計
	R7報告	床	54床	床	床	床	54床
	R7実績	床	54床	床	床	床	54床

※ R7報告は、許可病床数から令和6年7月1日から令和7年6月30日までの過去1年間に一度も入院患者を収容しなかった病床数を除いた病床数を記入してください。

R7実績は、令和7年7月1日時点で許可病床数のうち入院患者を収容する病床数を記入してください。

■ 病床機能(病床単位)※新規項目

	高度急性期	急性期	回復期	慢性期	空床	その他	計
2階病棟	床	床	54床	床	床	床	54床
病棟	床	床	床	床	床	床	床
病棟	床	床	床	床	床	床	床
病棟	床	床	床	床	床	床	床
病棟	床	床	床	床	床	床	床
病棟	床	床	床	床	床	床	床
計	床	床	54床	床	床	床	54床

※ 令和7年7月1日時点の状況について、病床単位で記入してください。病床単位での機能の把握が難しい場合は、空床数を記入の上、病棟単位の病床数から空床分を差し引いた病床数を記入してください。

■ 在宅関連

	R6	R5	R4
訪問診療実施件数	597	441	441
往診実施件数	36	27	15
訪問看護件数			
在宅看取り件数	36	27	19

※ 令和6年7月1日から令和7年6月30日までの1年間での件数を計上してください。

■ 貴診療所の役割及び特色

「地域に密着したやさしい医療の提供」をモットーに幅広く地域ニーズに対応できるよう、急性期から在宅ケアの充実に向け様々な取り組みを行っている。地域包括ケア病床を導入し、急性期医療終了後の患者様に対し、安心して地域生活が送れるよう社会復帰支援を行っている。

■ 医療と介護の連携及び在宅医療の充実に向けた取組

- ・令和2年より訪問看護ステーションを開設し、訪問看護事業の充実を図っている。
- ・チームいわい西に属して在宅医療の充実を図っている。

■ 今後の方向性(2040年頃の医療提供状況や病床数の見通し等)

・訪問診療や、訪問看護等の在宅医療の充実を図っていくとともに、救急医療等の現在行っている事業や病床機能は継続していきたい。

■ その他(他の医療機関との機能連携等)

地域医療構想実現に向けた取組シート

医療機関名	岩手県立千厩病院
担当者職・氏名	医事経営課長 合口 嶺雄

■ 医療資源等

病床種別	区分	一般	療養	感染	計	
	許可	116床	床	4床	120床	
	稼働	116床	床	4床	120床	
	非稼働	0床	床	0床	床	

※ 令和7年7月1日時点の種別ごとの病床数を記入してください。

■ 患者の状況

1日平均 入院患者数	年度	一般	療養	感染	計	
	R6	79.6人	人	0人	79.6人	
	R5	75.6人	人	0人	75.6人	
	R4	65.4人	人	0人	65.4人	

※ 令和6年4月1日から令和7年3月31日までの1年間の平均入院患者数を記入してください。

上記の入院患者数は、小数第一位まで(小数第二位を四捨五入)を記入してください。

病床 利用率	年度	一般	療養	感染	各区分を合わせた病床全体の 病床利用率	
	R6	53.8%	%	0%	52.4%	
	R5	51.1%	%	0%	49.8%	
	R4	44.2%	%	0%	43.0%	

※ 令和6年4月1日から令和7年3月31日までの1年間の病床利用率を記入してください。

上記の病床利用率は、小数第一位まで(小数第二位を四捨五入)を記入してください。

平均在院 日数	年度	一般	療養	感染	全体の平均	
	R6	17.4日	日	日	17.4日	
	R5	16.7日	日	日	16.7日	
	R4	13.4日	日	日	13.4日	

※ 令和6年4月1日から令和7年3月31日までの1年間の平均在院日数を記入してください。

上記の平均在院日数は、小数第一位まで(小数第二位を四捨五入)を記入してください。

救急患者受 け入れ状況	R6	998 件
	R5	1,104 件
	R4	1,114 件

※ 令和6年7月1日から令和7年6月30日までの1年間の救急車や救急医療用ヘリコプター等により搬送され受け入れた患者数を計上してください。

なお、病院間の搬送は対象外としますが、他院にて対応不可能として搬送された場合は計上してください。

■ 診療科目

診療科目	内科、呼吸器内科、消化器内科、循環器内科、脳神経内科、外科、心臓血管外科、整形外科、脳神経外科、皮膚科、小児科、泌尿器科、婦人科、眼科、耳鼻咽喉科、リハビリテーション科、麻酔科
------	--

■ 病床機能(病棟単位)

病床機能 (稼働)		高度急性期	急性期	回復期	慢性期	その他	計
	R7報告	床	60床	56床	床	床	116床
	R7実績	床	60床	56床	床	床	116床

※ R7報告は、許可病床数から令和6年7月1日から令和7年6月30日までの過去1年間に一度も入院患者を収容しなかった病床数を除いた病床数を記入してください。

R7実績は、令和7年7月1日時点で許可病床数のうち入院患者を収容する病床数を記入してください。

■ 病床機能(病床単位)※新規項目

	高度急性期	急性期	回復期	慢性期	空床	その他	計
3病棟	床	25床	19床	床	12床	床	56床
5病棟	床	31床	6床	床	23床	床	60床
病棟	床	床	床	床	床	床	床
病棟	床	床	床	床	床	床	床
病棟	床	床	床	床	床	床	床
病棟	床	床	床	床	床	床	床
計	床	56床	25床	床	35床	床	116床

※ 令和7年7月1日時点の状況について、病床単位で記入してください。病床単位での機能の把握が難しい場合は、空床数を記入の上、病棟単位の病床数から空床分を差し引いた病床数を記入してください。

■ 在宅関連

	R6	R5	R4
訪問診療実施件数	20	14	20
往診実施件数	1	1	3
訪問看護件数	1	0	0
在宅看取り件数	1	1	3

※ 令和6年7月1日から令和7年6月30日までの1年間での件数を計上してください。

■ 貴診療所の役割及び特色

○準広域病院として、両磐圏域の基幹病院である磐井病院と連携しながら主に旧東磐井地域の患者に入院医療等を提供しています。また、地域包括ケア病床を23床設置し、急性期医療後の回復期の患者も受け入れています。
○救急告示病院として脳血管系及び循環器系疾患の急性期を除いた急性期医療全般に対応しながら、救急患者を受け入れています。
○旧東磐井地域唯一の透析医療施設として、人工透析医療を担っております。
○より広範囲な疾患に対応できよう総合診療内科、総合診療外科を設置し、必要に応じ専門医療を担う医療機関を紹介しています。また、皮膚科、婦人科、眼科及び耳鼻いんこう科等の専門診療科の外来を設置し、地域密着での医療を提供しています。
○協力型臨床研修病院として、研修医の地域医療研修の受皿となっており、国立国際医療センター病院等首都圏からの研修医も受け入れています。

■ 医療と介護の連携及び在宅医療の充実に向けた取組

○一関市が主催する「医療と介護の連携連絡会」の構成員として参加し活動しています。
○主に旧東磐井地域の特別養護老人ホーム及び介護老人保健施設等の協力医療機関となっており、入所者の急変時の入院受け入れ等を行っています。
○地域医療福祉連携室を設置しており、当該部門の職員が近隣の医療機関や介護施設を訪問するなど、連携強化を図っています。
○在宅療養支援病院として、訪問診療を行っている診療所や訪問看護ステーション等と連携しながら、在宅療養中の患者の急変時の入院受け入れ対応等を行っています。また、在宅療養中患者の家族への支援としてレスパイト入院の受け入れも行っていきます。

■ 今後の方向性(2040年頃の医療提供状況や病床数の見通し等)

○両磐圏域内の基幹病院や他の病院と連携を図りつつ、圏域内の人口動向を見ながら、旧東磐井地域内で必要な入院及び外来医療が提供できるよう、適正な病床数を含め検討を進めていきます。

■ その他(他の医療機関との機能連携等)

○主に東磐井地域の診療所から精査や入院加療が必要となる患者の紹介受け入れを行っています。また、CT、MRI及び生理検査等の設備を他の医療機関に開放し、利用してもらっています。
○磐井病院、岩手医大等で急性期治療を終えた患者の転院受け入れを行っています。

地域医療構想実現に向けた取組シート

医療機関名	独立行政法人国立病院機構岩手病院
担当者職・氏名	庶務班長・佐藤 正彦

■ 医療資源等

病床種別	区分	一般	療養				計
	許可	250床	床				250床
	稼働	250床	床				250床
	非稼働	床	床				床

※ 令和7年7月1日時点の種別ごとの病床数を記入してください。

■ 患者の状況

1日平均入院患者数	年度	一般	療養				計
	R6	235.1人	人				235.1人
	R5	234.8人	人				234.8人
	R4	236.8人	人				236.8人

※ 令和6年4月1日から令和7年3月31日までの1年間の平均入院患者数を記入してください。

上記の入院患者数は、小数第一位まで(小数第二位を四捨五入)を記入してください。

病床利用率	年度	一般	療養				各区分を合わせた病床全体の病床利用率
	R6	94.00%	%				94.00%
	R5	93.90%	%				93.90%
	R4	94.70%	%				94.70%

※ 令和6年4月1日から令和7年3月31日までの1年間の病床利用率を記入してください。

上記の病床利用率は、小数第一位まで(小数第二位を四捨五入)を記入してください。

平均在院日数	年度	一般	療養				全体の平均
	R6	136.3日	日				136.3日
	R5	151.3日	日				151.3日
	R4	186.7日	日				186.7日

※ 令和6年4月1日から令和7年3月31日までの1年間の平均在院日数を記入してください。

上記の平均在院日数は、小数第一位まで(小数第二位を四捨五入)を記入してください。

救急患者受け入れ状況	R6	65件
	R5	99件
	R4	82件

※ 令和6年7月1日から令和7年6月30日までの1年間の救急車や救急医療用ヘリコプター等により搬送され受け入れた患者数を計上してください。

なお、病院間の搬送は対象外としますが、他院にて対応不可能として搬送された場合は計上してください。

■ 診療科目

診療科目	内科、心療内科、脳神経内科、呼吸器科、消化器科、循環器科、小児科、外科、脳神経外科、リハビリテーション科、歯科
------	---

■ 病床機能(病棟単位)

病床機能(稼働)		高度急性期	急性期	回復期	慢性期	その他	計
	R7報告	床	床	50床	200床	床	250床
	R7実績	床	床	50床	200床	床	250床

※ R7報告は、許可病床数から令和6年7月1日から令和7年6月30日までの過去1年間に一度も入院患者を収容しなかった病床数を除いた病床数を記入してください。

R7実績は、令和7年7月1日時点で許可病床数のうち入院患者を収容する病床数を記入してください。

■ 病床機能(病床単位)※新規項目

	高度急性期	急性期	回復期	慢性期	空床	その他	計
1病棟	床	床	床	50床	床	床	50床
2病棟	床	床	50床	床	床	床	50床
4病棟	床	床	床	50床	床	床	50床
5病棟	床	床	床	50床	床	床	50床
6病棟	床	床	床	50床	床	床	50床
病棟	床	床	床	床	床	床	床
計	床	床	50床	200床	床	床	250床

※ 令和7年7月1日時点の状況について、病床単位で記入してください。病床単位での機能の把握が難しい場合は、空床数を記入の上、病棟単位の病床数から空床分を差し引いた病床数を記入してください。

■ 在宅関連

	R6	R5	R4
訪問診療実施件数	22	22	25
往診実施件数			
訪問看護件数	0	28	116
在宅看取り件数			

※ 令和6年7月1日から令和7年6月30日までの1年間での件数を計上してください。

■ 貴診療所の役割及び特色

重症心身障害、神経筋難病および回復期リハビリテーションの3つを主要分野とする、独立採算のセイフティネット系病院です。これらの得意分野を生かした地域医療への貢献を第4の柱と位置づけています。入院病床は250床（50床，5箇病棟；すべて障害者病棟）です。主要3分野のそれぞれが「医療センター」を標榜することによって、診療科を越えたチーム医療・多職種連携・対外活動（多施設連携、介護・行政との連携）を進め、周辺圏域を含む広域において積極的に活動しています。特に、重症心身障害と神経筋難病については広域圏において唯一の専門医療機関なので、使命感をもって事業を展開しています。

■ 医療と介護の連携及び在宅医療の充実に向けた取組

- ①在宅療養中の神経筋難病患者のレスパイト入院を積極的に行っている。
- ②当院主催の公開セミナーを定期的に開催している。介護・福祉施設を中心に案内状を送付し、録画した講演の視聴、zoomを用いたオンラインミーティングを企画運営している。神経筋難病に関する情報を提供し、介護、福祉施設とのコミュニケーションを図ることを目的としている。
- ③地域医療連携パスにおける回復期リハビリ分野の担当。

■ 今後の方向性(2040年頃の医療提供状況や病床数の見通し等)

神経難病、重症心身障がい児(者)病棟の政策医療について継続していきます。レスパイト入院の受け入れは今後とも積極的におこなっていきます。
リハビリテーション、地域医療について、今後、よりひろい疾患の患者さんを受け入れる必要があると考えています。

■ その他(他の医療機関との機能連携等)

地域医療構想実現に向けた取組シート

医療機関名	医療法人清和会 岩手クリニック一関
担当者職・氏名	事務長 菅原 聡

■ 医療資源等

病床種別	区分	一般	療養				計
	許可	15床	床				15床
	稼働	床	床				床
	非稼働	15床	床				15床

※ 令和7年7月1日時点の種別ごとの病床数を記入してください。

■ 患者の状況

1日平均 入院患者数	年度	一般	療養				計
	R6	0人	人				0人
	R5	0人	人				0人
	R4	0人	人				0人

※ 令和6年4月1日から令和7年3月31日までの1年間の平均入院患者数を記入してください。
上記の入院患者数は、小数第一位まで(小数第二位を四捨五入)を記入してください。

病床 利用率	年度	一般	療養				各区分を合わせた病床全体の病床利用率
	R6	0%	%				0%
	R5	0%	%				0%
	R4	0%	%				0%

※ 令和6年4月1日から令和7年3月31日までの1年間の病床利用率を記入してください。
上記の病床利用率は、小数第一位まで(小数第二位を四捨五入)を記入してください。

平均在院 日数	年度	一般	療養				全体の平均
	R6	0日	日				0日
	R5	0日	日				0日
	R4	0日	日				0日

※ 令和6年4月1日から令和7年3月31日までの1年間の平均在院日数を記入してください。
上記の平均在院日数は、小数第一位まで(小数第二位を四捨五入)を記入してください。

救急患者受 け入れ状況	R6	0件
	R5	0件
	R4	0件

※ 令和6年7月1日から令和7年6月30日までの1年間の救急車や救急医療用ヘリコプター等により搬送され受け入れた患者数を計上してください。
なお、病院間の搬送は対象外としますが、他院にて対応不可能として搬送された場合は計上してください。

■ 診療科目

診療科目	内科・腎臓内科
------	---------

■ 病床機能(病棟単位)

病床機能 (稼働)		高度急性期	急性期	回復期	慢性期	その他	計
	R7報告	床	床	床	床	床	0床
	R7実績	床	床	床	床	床	0床

※ R7報告は、許可病床数から令和6年7月1日から令和7年6月30日までの過去1年間に一度も入院患者を収容しなかった病床数を除いた病床数を記入してください。

R7実績は、令和7年7月1日時点で許可病床数のうち入院患者を収容する病床数を記入してください。

■ 病床機能(病床単位)※新規項目

	高度急性期	急性期	回復期	慢性期	空床	その他	計
病棟	床	床	床	床	床	床	床
病棟	床	床	床	床	床	床	床
病棟	床	床	床	床	床	床	床
病棟	床	床	床	床	床	床	床
病棟	床	床	床	床	床	床	床
病棟	床	床	床	床	床	床	床
計	床	床	床	床	床	床	床

※ 令和7年7月1日時点の状況について、病床単位で記入してください。病床単位での機能の把握が難しい場合は、空床数を記入の上、病棟単位の病床数から空床分を差し引いた病床数を記入してください。

■ 在宅関連

	R6	R5	R4
訪問診療実施件数	0	0	0
往診実施件数	0	0	0
訪問看護件数	0	0	0
在宅看取り件数	0	0	0

※ 令和6年7月1日から令和7年6月30日までの1年間での件数を計上してください。

■ 貴診療所の役割及び特色

現在休床中。
両磐地区最大規模の人工透析設備を完備し、常時170名前後の患者さんに対し維持透析を行っております。
また、月・水・金週3回の夜間透析や無償送迎（概ね片道1時間以内）も行っており、患者さんの様々なニーズにお応え出来るよう取組んでおります。

■ 医療と介護の連携及び在宅医療の充実に向けた取組

現在のところ予定はありません。

■ 今後の方向性(2040年頃の医療提供状況や病床数の見通し等)

法人全体関わるものであり、長期方針も示されていない為現状では不明です。

■ その他(他の医療機関との機能連携等)

特にありません。

地域医療構想実現に向けた取組シート

医療機関名	齊藤産婦人科医院
担当者職・氏名	事務・齊藤達也

■ 診療科目

診療科目	産婦人科(周産期)・内科
------	--------------

■ 病床機能

病床機能 (稼働)	高度急性期	急性期	回復期	慢性期	その他	計
	R7報告	床	0床	床	床	床
R8見込	床	19床	床	床	床	床

※ R7報告は、許可病床数から令和6年7月1日から令和7年6月30日までの過去1年間に一度も入院患者を収容しなかった病床数を除いた病床数を記入してください。

R8見込は、令和8年7月1日時点で許可病床数のうち入院患者を収容する見込みの病床数を記入してください。

■ 病床機能(病床単位)※新規項目

	高度急性期	急性期	回復期	慢性期	空床	その他	計
病棟	床	床	床	床	床	床	床
病棟	床	床	床	床	床	床	床
病棟	床	床	床	床	床	床	床
病棟	床	床	床	床	床	床	床
病棟	床	床	床	床	床	床	床
病棟	床	床	床	床	床	床	床
計	床	床	床	床	床	床	床

※ 令和7年7月1日時点の状況について、病床単位で記入してください。病床単位での機能の把握が難しい場合は、

空床数を記入の上、病棟単位の病床数から空床分を差し引いた病床数を記入してください。

■ その他(他の医療機関との機能連携等)

--

地域医療構想実現に向けた取組シート

医療機関名	くわしま眼科クリニック
担当者職・氏名	院長 桑島研一

■ 診療科目

診療科目	眼科
------	----

■ 病床機能

病床機能 (稼働)	高度急性期	急性期	回復期	慢性期	その他	計
R7報告	床	4	床	床	床	床
R8見込	床	0	床	床	床	床

※ R7報告は、許可病床数から令和6年7月1日から令和7年6月30日までの過去1年間に一度も入院患者を収容しなかった病床数を除いた病床数を記入してください。

R8見込は、令和8年7月1日時点で許可病床数のうち入院患者を収容する見込みの病床数を記入してください。

■ 病床機能(病床単位)※新規項目

	高度急性期	急性期	回復期	慢性期	空床	その他	計
病棟	床	4	床	床	床	床	4
病棟	床	床	床	床	床	床	床
病棟	床	床	床	床	床	床	床
病棟	床	床	床	床	床	床	床
病棟	床	床	床	床	床	床	床
病棟	床	床	床	床	床	床	床
計	床	4	床	床	床	床	4

※ 令和7年7月1日時点の状況について、病床単位で記入してください。病床単位での機能の把握が難しい場合は、

空床数を記入の上、病棟単位の病床数から空床分を差し引いた病床数を記入してください。

■ その他(他の医療機関との機能連携等)

--

地域医療構想実現に向けた取組シート

医療機関名	医療法人慈融会 二宮眼科医院
担当者職・氏名	齋藤

■ 診療科目

診療科目	眼科
------	----

■ 病床機能

病床機能 (稼働)		高度急性期	急性期	回復期	慢性期	その他	計
	R7報告	床	12床	床	床	床	床
	R8見込	床	12床	床	床	床	床

※ R7報告は、許可病床数から令和6年7月1日から令和7年6月30日までの過去1年間に一度も入院患者を収容しなかった病床数を除いた病床数を記入してください。

R8見込は、令和8年7月1日時点で許可病床数のうち入院患者を収容する見込みの病床数を記入してください。

■ 病床機能(病床単位)※新規項目

	高度急性期	急性期	回復期	慢性期	空床	その他	計
病棟	床	床	床	床	床	床	床
病棟	床	床	床	床	床	床	床
病棟	床	床	床	床	床	床	床
病棟	床	床	床	床	床	床	床
病棟	床	床	床	床	床	床	床
病棟	床	床	床	床	床	床	床
計	床	床	床	床	床	床	床

※ 令和7年7月1日時点の状況について、病床単位で記入してください。病床単位での機能の把握が難しい場合は、

空床数を記入の上、病棟単位の病床数から空床分を差し引いた病床数を記入してください。

■ その他(他の医療機関との機能連携等)

地域医療構想実現に向けた取組シート

医療機関名	一関中央クリニック
担当者職・氏名	事務 荻荘

■ 医療資源等

病床種別	区分	一般	療養				計
	許可	17床	0床				17床
	稼働	17床	0床				17床
	非稼働	0床	0床				床

※ 令和7年7月1日時点の種別ごとの病床数を記入してください。

■ 患者の状況

1日平均 入院患者数	年度	一般	療養				計
	R6	11.6人	0人				11.6人
	R5	11.6人	0人				11.6人
	R4	10.4人	0人				10.4人

※ 令和6年4月1日から令和7年3月31日までの1年間の平均入院患者数を記入してください。

上記の入院患者数は、小数第一位まで(小数第二位を四捨五入)を記入してください。

病床 利用率	年度	一般	療養				各区分を合わせた病床全体の 病床利用率	
	R6	68.3%	0%					68.3%
	R5	70.8%	0%					70.8%
	R4	61.0%	0%					61.0%

※ 令和6年4月1日から令和7年3月31日までの1年間の病床利用率を記入してください。

上記の病床利用率は、小数第一位まで(小数第二位を四捨五入)を記入してください。

平均在院 日数	年度	一般	療養				全体の平均
	R6	18.6日	0日				18.6日
	R5	19.5日	0日				19.5日
	R4	18.7日	0日				18.7日

※ 令和6年4月1日から令和7年3月31日までの1年間の平均在院日数を記入してください。

上記の平均在院日数は、小数第一位まで(小数第二位を四捨五入)を記入してください。

救急患者受 け入れ状況	R6	23件
	R5	45件
	R4	32件

※ 令和6年7月1日から令和7年6月30日までの1年間の救急車や救急医療用ヘリコプター等により搬送され受け入れた患者数を計上してください。

なお、病院間の搬送は対象外としますが、他院にて対応不可能として搬送された場合は計上してください。

■ 診療科目

診療科目	内科、胃腸科、小児科
------	------------

■ 病床機能(病棟単位)

病床機能 (稼働)		高度急性期	急性期	回復期	慢性期	その他	計
	R7報告	床	17床	床	床	床	床
	R7実績	床	17床	床	床	床	床

※ R7報告は、許可病床数から令和6年7月1日から令和7年6月30日までの過去1年間に一度も入院患者を収容しなかった病床数を除いた病床数を記入してください。

R7実績は、令和7年7月1日時点で許可病床数のうち入院患者を収容する病床数を記入してください。

■ 病床機能(病床単位)※新規項目

	高度急性期	急性期	回復期	慢性期	空床	その他	計
2F病棟	床	17床	床	床	床	床	17床
病棟	床	床	床	床	床	床	床
病棟	床	床	床	床	床	床	床
病棟	床	床	床	床	床	床	床
病棟	床	床	床	床	床	床	床
計	床	17床	床	床	床	床	17床

※ 令和7年7月1日時点の状況について、病床単位で記入してください。病床単位での機能の把握が難しい場合は、空床数を記入の上、病棟単位の病床数から空床分を差し引いた病床数を記入してください。

■ 在宅関連

	R6	R5	R4
訪問診療実施件数	825	812	842
往診実施件数	7	8	12
訪問看護件数	0	0	0
在宅看取り件数	11	8	7

※ 令和6年7月1日から令和7年6月30日までの1年間での件数を計上してください。

■ 貴診療所の役割及び特色

一関中央クリニックは、ひとり一人に寄り添う「身近なかかりつけ医」を目指し、総合内科、消化器内科、小児科及び糖尿病や呼吸器の専門外来及び通所リハビリテーションを併設している有床診療所です。

また、連携する病院、診療所と機能強化型在宅療養支援所「チームいわい西」を結成し、それぞれの専門性を活かしながら在宅医療を展開しており、地域包括ケアシステムの一翼を担っております。

■ 医療と介護の連携及び在宅医療の充実にに向けた取組

「チームいわい西」においては、チームメンバー以外に保健所、市町の担当者及び医療・介護従事者等の参加の下、毎月勉強会を開催しているほか、公開勉強会や研修会を継続的に実施してします。

また、住民を中心とした地域包括ケアシステムの推進等を図る目的で「いのちと暮らしを支え合うプロジェクト」を立ち上げて、医療、介護、健康をテーマに市民を対象とした講習会を開催しています。

■ 今後の方向性(2040年頃の医療提供状況や病床数の見通し等)

当院は有床診療所が有している緊急時に対応する医療機能、在宅医療の拠点としての機能、入院患者の在宅・介護施設への受け渡しとしての機能など、複数の機能を活用して地域医療を支え、地域社会に貢献してきております。

2040年は85歳以上の高齢者が増加し、団塊の世代は90歳以上になる超高齢社会となることが予想されていることから、2040年にあっても身近な入院施設、在宅医療の拠点としての当院の果たすべき役割には大きな変化がないものと考えております。

■ その他(他の医療機関との機能連携等)

I C T (情報連携システム) を活用し、介護・福祉施設等と連携しながら、迅速かつ適切な医療提供体制をとっております。

今後の展望としては、地域包括ケアシステムの一環として、二次救急医療機関との連携はもとより、各医療機関、各介護・福祉施設、行政機関等と幅広い連携を図りたいと考えております。